

第1回 みどり市立学校適正規模・適正配置東地区検討委員会 議事録

○日 時 令和7年7月30日（水） 午後7時00分～午後8時40分

○場 所 東公民館 ホール1・2

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置東地区検討委員会委員】 11名

委員長	田口 和人
副委員長	関口 渉
委員	栗原 孝志
委員	小西 明
委員	足立 義継
委員	金子 栄司
委員	湯浅 正雄
委員	伊藤 明日香
委員	前原 一男
委員	高瀬 康子
委員	小暮 真美

【欠席者】 なし

【みどり市教育委員会】 8名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
みどり市教育部	部長	金高 吉宏
教育総務課	課長	今泉 源太郎
学校教育課	課長	神山 亮一
教育総務課	課長補佐	園原 裕一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	知久 鉄平
教育総務課施設係	係長	大窪 進
学校教育課教職員係	管理主事	西村 晋一

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 なし

○議事の概要

1 開 会〔開始：午後7時00分〕

2 委嘱状の交付

- ・保志教育長から委員へ委嘱状を交付

3 教育長あいさつ

- ・みどり市教育委員会 教育長 保志 守
皆様、こんばんは。

本日は、公私ともに大変お忙しい中、第1回となりますみどり市立学校適正規模・適正配置 東地区検討委員会にお集まりいただきありがとうございます。

また、今、代表受領という形で委嘱状を田口委員さんに交付させていただきましたけれども、皆様も快く委員を引受けていただき、本当にありがとうございます。さらに、皆様におかれましては、日頃より教育行政に深いご理解・ご協力をいただいていますことにあらためて感謝申し上げます。

さて、みどり市ではこれまでに、小規模校化が顕著となっていた大間々の小学校の統廃合や東町の小中学校を統合した義務教育学校への移行、大規模校となっていた笠懸小学校を分離し、笠懸西小学校の新設を行ってきました。しかし、今後も児童生徒数は減少していく見込みとなっており、少子化に対応した学校教育の在り方について、将来を見据えた取組が必要になってまいりました。

そこで、令和5年度より「みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会」を立ち上げ、みどり市として望ましい学校規模や学校配置について、2年間をかけて検討していただき、令和6年8月に検討委員会から答申をいただきました。

さらに、教育委員会では、いただいた答申を基に、今後の学校規模の適正化や将来を見据えた学校配置の在り方、少子化に対応した魅力ある学校づくり等について、その基本的な考え方をまとめた基本方針を策定いたしました。

今後の市内の学校規模や学校配置については、速やかに具体的な検討を始める必要があります。さらに、笠懸町、大間々町、東町それぞれの地域における学校規模及び学校配置の現状と課題は大きく異なりますので、地域ごとの実情に応じた具体的な検討が必要です。また、協議については、保護者や学校関係者、地域住民の皆様の意見を尊重しながら進めていくことが大切であることから、今年度より本委員会を設置することといたしました。

そして、本基本方針と地区別検討委員会で得た方向性を踏まえながら、学校の統廃合や移転新築等について、地域住民や保護者、児童生徒、関係者の皆様の理解や協力を得ながら、総意として判断できるよう準備を進めてまいりたいと考えています。

委員の皆様におかれましては、本基本方針を参考にいただきながら、それぞれのお立場から、東町に適した方向性を幅広くかつ具体的に検討していただき、専門的な知識や経験を生かしながらご意見を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 自己紹介

- ・委員及び事務局自己紹介

5 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により、委員長に田口和人委員、副委員長に関口渉委員を選出。

6 諮 問

- ・保志教育長から委員会（委員長）へ諮問【配布資料3】

7 確認及び説明事項

- ・確認及び説明事項に移る前に、みどり市立学校適正規模・適正配置地区別検討委員会規則【配布資料2】の一部について事務局より確認。

- ① 議事進行は、みどり市立学校適正規模・適正配置地区別検討委員会規則第6条第1項の規定により、委員長が議長を務める。
- ② みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会規則第6条第2項の規定により、本日の委員会は過半数以上の委員の出席により成立する。

（1）みどり市立学校適正規模・適正配置地区別検討委員会規則について

【資料3】に基づき、事務局から説明。

（2）みどり市立学校の適正規模・適正配置基本方針について

【配布資料4】に基づき、事務局から説明。

- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発 言 内 容
委員 1	学校区を外すことは考えていますか。住んでいるところによって通う学校は決まっていますが、それをフリーにするということです。
議長（委員長）	現在、「特認校制度」ということで笠懸からも大間々からも東に通っています。このような形が一つの表れかと思いますが。
委員 1	それと同じようなことを考えていないか。具体的には大間々南小学校が分かれる案があるが、線を引かないで個人の判断に委ねるということです。
議長（委員長）	ある意味学校選択制ということですね。
委員 1	はい、回答はなくて大丈夫です。

8 協議 今後の東町における学校適正規模・適正配置及び地域の活性化について

- ・東町の小中学校は、あずま小中学校が義務教育学校としてスタートしているので、「適正な規模」と「適正な配置」については対応済みであり、今後も義務教育学校として維持・継続していくことについて委員に諮り、了承を得る。
- ・今回の協議では、検討事項の3「少子化に対応した魅力ある学校づくりに関すること」と4「その他、教育委員会が必要と認めること」を中心に検討していくことを確認し、【配

布資料 5】に基づき、事務局から「保小中一貫教育コンセプト」について説明した。

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

今後の東町における学校適正規模・適正配置及び地域の活性化について	
発言者	発 言 内 容
議長（委員長）	今、資料で説明があり、かなり幅広く中身も豊かなものが提示されていますが、これは東地区の保小中一貫教育について、市としての考え方を示していただいたことになります。この東地区の検討委員会としましては、どのような議論をしていくかということですが、今日は第 1 回目ということなので、皆さんの率直なご意見をお聞かせいただきながら、第 1 回をスタートさせていただきたいと思っています。今事務局から説明があった内容につきましては、まずは PTA の方から、あずま小中学校をどのように見ていらっしゃるか、あるいは保護者のご意見、あるいは子供さんのご意見などを含めてお話いただければありがたいです。
委員 2	昔からそうなのですが、上の学年の子たちが下の小さい子たちの面倒をよく見て学校全体でみんな仲良く過ごしてと思っています。この様子はこれからも変わらないと思いますが、人数がどんどん減ってきてしまっているのが仲良く過ごす様子もどんどん小さくなっていくのではと心配です。そこで保育園が一緒にとなれば、また年齢の幅が広がりますし、1 年生、2 年生たちにとっても新たな交流ができて、いろいろな経験もできるのでよいと思います。
議長（委員長）	あずま小中学校は大変小規模な学校なので、今まで様々な事を検討しながら運営されてると思います。その中で、上の学年の子が下の学年の子の面倒を見る取組等はとてもよいものとして伺っていますが、課題についての声が保護者や子どもからあがっていれば、教えていただきたいです。
委員 2	子供から「あずま小中学校のここがいやだ」という話は聞かないです。それは多分親が思うだけだと思います。競争がないとよく言われますが、もうそれはもう昔からのことなのではないと思います。個人で頑張るしかない。他の子と比べるのではなく、その子自身がどうなりたいか、私の子もそうですが、どうしたいかという思いだけでやるしかない。比べるのがいいか悪いかはまた別ですが、それが本人のやる気に繋がるというのは実際あると思うので、そういうところはなかなか難しいとは思いますが。親の意見としては、それがいいやならば少し大変ですけど塾に通わせる等すればいいのではと思います。
議長（委員長）	今塾に通わせてる親御さんもいらっしゃるわけですか？
委員 2	いないと思います。受験だから行くというはありますが、普段塾に行っている家庭は多分ないと思います。学校が塾みたいなものだと思いますけど。
委員 3	遠いからですか？
委員 2	遠いからだと思います。
委員 3	中学生は行ってますよね。
委員 2	いや、中学生も行っていないと思います。私の子は行ってないです。

委員 3	昔は中学生は行ってましたよね。大間々辺りに。
委員 2	今の子は多分なかなか行ってないですね。
副議長（副委員長）	昔は花輪にそろばん塾とかいろいろあって、通ってる子どもたちがいましたよね。
委員 3	英語塾とかありましたね。
副議長（副委員長）	ただ、教える方もいなくなるし、教わる方も少ないから成り立たなくなって、結局こういう形になったのだと思います。
委員 3	単純な疑問をちょっとお聞きしてよろしいですか。保育園を入れるのは、学校の校舎の中のどこかに入れるのですか。それとも、敷地内のどこか。建物を作るということないですよ。学校の教室の一部に入れる。そうすると、給食は、給食センターが持ってきたものを食べるのでしょうか。
議長（委員長）	ここは事務局の方で、現段階でのところお話いただけますか。
事務局	決定していることはないので、保育園には保育園のやりやすさがありまし、学校には学校のやりやすさがあって、一緒に建物の中だと不便な面もたくさんあるということは、ご意見をいただいています。ただ、あまり遠ければ、ねらっている活動がやりにくくなってしまうので、遠からず一緒に建物ではないようなところがいいかなと思いますけれども、決定していることはありません。検討中というところです。
委員 3	遠からずというのは、別の建物のイメージの方が強いということですか。
事務局	そうですね。
委員 3	作るかどうかはまだはっきり言えないところですね。作るのは難しいかもしれないですよ。
副議長（副委員長）	それと、これは保小中になっていますが、保育園と幼稚園との考え方というのを整理したのですか。
事務局	そこはまだはっきり言えませんが、検討しています。
委員 3	幼稚園にすれば、全部学校教育課でできますよね。
議長（委員長）	その辺の制度的な問題が出てきますね。
委員 3	認定子ども園にして保育園の機能を持たせればいいということですよ。理想ですけど。
副議長（副委員長）	まだそこもはっきり言えないところなんですね。
委員 3	イメージ的にはわかりました。学校の中ではないということは確かですね。建物の中ではない。校舎の中には保育園は入らない。遠からず近いところへ何かを存在させるということ。
議長（委員長）	現在すでに小・中学校での 9 年間がありますので、そこに就学前の保育園をどうするのかという話になりますが、先ほどの保小中一貫教育という形で説明がありましたので、東地区の 1 つの課題ということでイメージを明確にしていくものになるかと思います。

委員 3	結局ちえのみ保育園がいらなくなるので、あれを壊すということですか。
議長（委員長）	そのあたりの話になると、今後は制度的な話も出てくるだろうと思います。そのお話に行く前に、現状のところについて少しお話を皆さんからもいただきたいと思います。こういうところがあればいいな。こういうところは満足してるけどそこは少し改善が必要じゃないか、というようなところをお話いただけますか。
委員 1	小規模校、これはそんなに悪いところはないと思います。私も実際小規模校に務めていて楽しかったです。子供たちと本当に身近に接することができ、いろいろな面で子供を応援できる。そこが小規模校の良いところ。小規模校に行ってよかったなという思いは今も持っています。また東地域そのものもいい。地域の方々がいい。だから親御さんたちのまとまりもいい。だから、特にこれという課題は感じることなく楽しく過ごしました。東地域にはもう人生の半分ぐらいは勤めています。大変東地域はいいと思います。
議長（委員長）	委員 4 さんはいかがですか。課題というか、非常にもう満足されてるという話でももちろん構いません。
委員 4	私の娘はちえのみ保育園で育ち、群馬県で今一番大人数だと言われている数塚小学校の方へ就学しました。ちえのみ保育園では、5 歳児がたった 3 名でした。そして、急に 800 人以上いるところに投げ込まれたので、最初は 1 年生ショックが大きくて、親もちょっと悩んだ時期がありました。やはり子供の特性によってすぐに適応できる子となかなか適応できない子がいると思います。ちえのみ保育園では、先生と子供とすごく密な関係がとれるので、そこでしっかり基礎を学んでいたからこそ、大きいところに行っても迷うことなくしっかり学習できているのかなと感じています。娘は、すごく小規模のところであって、今はすごく大規模なところで育って両方経験していますが、私自身は、笠懸で生まれて、マンモス校と言われた笠懸小学校を卒業しました。先ほどお話にあったように笠懸小は笠懸中学校と南中学校に分かれるようになっていて、昔は、線路で学区が分かれていました。笠懸中学校も大規模だったので、私はずっと大規模大規模の中で育ってきて、高校、短大、就学しても、人間関係で困ったことは少しもありませんでした。いろいろなところでもまれてきたので。なので、あずま小のお子さんを見てると、やっぱり保育園でも少人数だったので、あずま小に就学して、「ちょっと人間関係で悩んでるんです」と親御さんから聞いたり、ちえのみ保育園を卒園した何名かのお子さんはあずま小の人数が少ないことを理由に結局大間々に出てしまったりしています。そういうご家庭がここ数年多くて、去年にいたっては、ちえのみからあずま小学校へ就学した児童が 0 人でした。やはりそこが東地区の課題であると感じています。
議長（委員長）	子供を持つ親の思いの中にそういう部分があるということですね。
委員 4	そうですね。子供が選択するというよりも、親が選択してしまっているということが大きい。そこはすごく感じます。

副議長（副委員長）	その辺で私が理想で言うんですけど、子供もあずま小中学校に行きたい、親も行かせたい、そういうような学校づくりをみんなで協力してできるといいと思います。あと、この東にいる若い人たちが働ける場所が東にあるのが一番いいかと思います。子供もそこの学校に行きたい、親もそこの学校に行かせたい、そういう学校づくりについて、何かお手伝いできたらと思っています。 もう1つは、この計画を見ると子供たちが皆同じようないい子になってしまう。変な意味でなくて。これに、もっと個性を重視できるような、子供の個性を伸ばせるような、その子供を目覚めさせるような、そういった内容が含まれるとよりよくなっていくと思います。
議長（委員長）	委員5さん、保育園の保護者の立場からいかがですか。
委員5	とりあえず現状には満足しています。
議長（委員長）	ゆくゆくは、お子さんは今のあずま小中学校の方へ進学する予定ですか。
委員5	はい。今上の子が通っていて、下の子も通う予定です。
議長（委員長）	あずま小中学校は非常にいい学校そうだと感じますか。
委員5	そうですね、はい。
議長（委員長）	せっかくですので、運営協議会の方で、委員6さん。どのように見てらっしゃるかお話いただけますか。
委員6	運営協議会の方も今年から委員を初めて務めさせていただいて、地域には住んでいてもなかなかあずま小中学校の実際の教育活動をまだ目にすることがないので、詳しいことはわかりません。ただ、この資料やいろいろなところに出てくる「交流」とか、「人数が少ないからきめ細かに目が届く」については、ちょっと疑問に感じています。「交流」も、ただ一緒にいることが交流ではないし、一緒に何か活動したから交流かというところでもない。やればやらないよりは、そこに状況が生じるのでメリットはあると思いますが。やはり交流することによって、こんなことを身に付けさせたい、考えさせたいという目的意識とか、カリキュラム上の位置付けとか、そういうことももっと考えてアイデアを出さなければいけないと思います。 もう一つ、例えば40人パツパツにいるクラスでも3人しかいないクラスでも、40人だと40分の1しか見てもらっていないのかというと、そういうわけではないはずです。40人いたって一人一人を見てるわけです。3人しかいないからよく見てもらえているのかというと、3人しかいなかったって本質を見てもらってない場合もあるわけです。 子供たち一人一人の個性を生かすとか特性を見極めて、次にステップアップしていくためのプラスの指導をしていくということは、小規模校だろうが大規模校だろうが変わらない基本的な姿勢だと思います。そういった姿勢が前提にあって話が進んでいかないと、何か特化したところにばかり目がいつてしまうし、ちょっとそれは違うかなと思います。全体を通してそういう感じは受けています。だから具体化していくんだと思うのですが、その時に、保小中が繋が

	ってればプラスが生まれるとか、少なればうまくいくとか、そういうことではないという前提で議論する必要があるかなと私自身は感じています。
議長（委員長）	学校運営協議会の部分についての話は今までも蓄積があるのかと思います。今度は地区の方で、学校の方の様子などをどのように見てらっしゃるかというお話をお願いできますか。
委員 7	私もそんなに把握してはいませんが、年々、学校に通う子供たちが少なくなっていると感じています。今、私の地区には子供が 3 人がいて、一応バスで送り迎えをしてるんですけど、東は何かと不便なところがありますので、若い人はどうしても大間々とか外の方に出ていってしまうので、それをどうにかしないと無理かなと思っています。やっぱり若い親がどうしても結婚すると外へ出ていってしまうのが一番大きなデメリットじゃないかなと思ってます。
委員 3	私の地区も、小学生、委員 5 さんのお子さんが 1 人と、もう 1 人ぐらいしかいないです。交通安全週間に立ってますと、信号を通るのが 1 人しかいないと。そういう状況なので非常に将来を危惧しています。というのは、学校そのものが存続できるんだろうか。そんな心配を正直なところしています。保育園もそうですけど、存続問題と言うのでしょうか。
議長（委員長）	校長先生はあずま小中学校の様子をどう見てらっしゃるかお話しいただけますか。
委員 8	いろいろお話ししたいことは山のようにありますが、この保小中一貫教育については、子供たちにとってメリットはたくさんあるかなと感じています。ちえのみ保育園にいる子供たちが、あずま小中学校ではなく下の学校に行ってしまうというのは我々教職員にとっても残念なことで、せっかくちえのみさんで学んでいるのだから、その子供たちが上がってきてくれるといいのというような話題はよく出るので、保育園が小中学校と一緒にすることで、ちえのみさんで基礎を学んで育てていただいて、それをまたお預かりしてさらに伸ばしていく、そういう切れ目のない流れができるのではないかと思います。あと委員 2 さんもおっしゃってましたけれども、子供たちが本当に小さい子の面倒をよく見るんですね。見てあげてとは誰も言わないのですが、自然と見るんです。なので先生たちが手を出さなくても、新しく入った新入生たちを教室まで送っていったりとか、何か困ったことがあれば声をかけたりとか、なつかれて一緒に遊んだりとか。そういうこともありますので、そこに保育園の子供たちが入っても、きっと同じようにみんなできるだろうなと思います。 私は校長としてお世話になってるのがこの 4 月からですけども、根本のところは、何か山の方に面白いことやってる学校があるよと、そんなふうに皆さんに思ってもらいたい、知ってもらいたいという気持ちをすごく持ってまいす。そういう意味では、この保育園の子供から、まさに 0 歳から 15 歳までの子供たちが一緒に学ぶというスタイルが確立していけば、1 つ面白いことの一端を担えるのではという気持ちもあります。あとは、事務局の方から非認知能力の

	話もありましたけれども、学力向上、今の小中学生にとってすごく課題です。やはり競争意識がないとか、そういう理由だけではないと思いますが、学力を高めたいと我々教職員は思っていますが、子供たち自身がなかなかそう思わないような現状もあります。学力はただ問題を解けば伸びるとか、ドリルをやれば身につくとかではなくて、ここに書いてあるように非認知能力が育って、初めて学力も身につくというようなところもあると思いますので、この保小中一貫教育を実践していくことで、これも計画的、そして系統的な非認知能力の育成ができるのかなと思います。そうすれば、小さいうちから、学力に必要な資質を育てていくこともできると思います。どのようにやっていったらいいかはまだわかりませんし、市のご指導をいただきながら、またちえのみさんともいろいろ相談をさせていただきながら進めていくのだと思いますが、プラスの部分もたくさんあると思いますし、逆にそのプラスの部分をしっかり生かしていく、そういう必要があると感じています。
議長（委員長）	ありがとうございます。副議長さん、今日のお話の最後的なところでどうでしょうか。サーカス学校のことも含めながら。
副議長（副委員長）	さっき説明を聞いていて、ちょうど東の3小学校が統合したときにサーカス学校が始まりました。平成13年、2001年の3月31日で、花輪小・杲小・沢入小がここのあずま小になりました。そして、一貫校であずま小中学校になったときに、今度は沢入から、神戸の東中の体育館にサーカス学校が移りました。学校の節目にサーカス学校が動いているなどと思いながら説明を聞いていました。私も学校には、5年か6年こういった協議会でつき合わせていただいているのですが、その頃の子供は、みんなシャイというか、挨拶もするのが恥ずかしいような感じの子供さんたちが多かった。学校の中ではよく挨拶はしてたらしいですけど、外出ると挨拶はあまりしてなかった感じでした。ところがこの1, 2年、子供が変わってきたような気がします。伸び伸びとしてきた、元気になってきた。やはり、あずま小中学校が楽しいんだろうなと。子供は、楽しいのが一番でしょうから。さらに欲がありますから、もっと個性を伸ばして欲しいとか、もっと優秀になって欲しいとか、芸術性のある子はもっと絵が上手になってほしいとか、そういうふうに育ってほしいという気持ちがあります。そういう子たちがどんどん育ってくると、私の理想として、「あの学校へ行っていれば、将来どういう形でも、どういう子どもにもなれるよね」と思ってもらえる、そういうような学校を目標にできたらなという考えがあります。 あとは、やはり今地域の繋がりというのは非常に難しいと思います。年齢層が高すぎる。私のような70過ぎでも若い方ですから。私から言わせる「年寄り」はもっともっと高齢で、その人達と交流するとなると、子供さんたちが年寄りを扱いづらいと思うんです。中間がないから。結局我々の年代が、子供たちを自分の子供や孫みたいに育てることを考えながら学校と携わって、少しでも学校に残せばいいなと感じています。

議長（委員長）	委員 9 さん、ご発言いただけていませんでした。いかがですか。
委員 9	上の子の同級生が大間々に移動してしまって、「どうしたの?」と聞くと「競争相手がいない」という感じでした。競争相手なんていなくてもいいじゃないかと思ってはいたのですが。やはり、一人の親として見ると、学力が足りない部分も運動能力が足りない部分も多くあり、やはりそういうことも大事だなと思っていますし、学校の先生もよくやってくれているのでそれなりにできていると思いますが、やはり学力が足りなかったので塾に行かせました。夏期講習。子供本人が行きたいと奇跡のようなことを言うので、親として応えたいのですが、電車で行かなくてははいけない。その電車賃は学割が一切効かず、相当苦労した事実があります。やはり通勤通学でないと、補助がおりないと渡良瀬溪谷鉄道さんに言われてしまいました。単純に 1 回 800 円だとすれば、20 日買えば往復で 3 万円です。塾代とかもあるので、そういうことを考えると、東にいる必要もないな。よそで場所を借りて行けば、競争相手もいる。塾にも自転車で通える。その分家賃もどうにかなる。そう考えると、うちの方もそういう現実はあるなと思いました。言わないとわからないと思うのでこれを機会にちょっと言わせていただけたんですけれども、そういう面についても親の負担的なものにフォローをいただけないと、難しいかなと思います。
議長（委員長）	ありがとうございます。いくつか論点の柱があがってきたかというふうに私自身は受けとめております。 今日はこれくらいのところで、次回につなげていきたいと思っております。 事務局の方で進行をお返しします。

9 その他

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発 言 内 容
副議長（副委員長）	最近、子供がプールで溺れましたよね。学童でしたか。このことについては教育委員会としてはどう捉えていますか。考えるのはこれからでしょうか。
事務局	今、学校プールを民間に委託しているのが、大間々南小、大間々北小、笠懸東小の 3 校です。こちらとしては安全面も踏まえて委託しています。例えば野間スイミングさんでは、大間々南小も大間々北小も 2 学年で入っているのですが、担任の先生がプールサイドから見て、コーチが 1 つのグループに 2 人ずつ付いて、9 人から 10 人ぐらいで指導をいただいています。そこについては、専門的でもあるし、天候も含めて安全面は高いかと思っています。 学童の話は、スイミングスクールのプールで監視員さんとコーチの 2 人きりだったと思います。やはり 2 人っていうのは、目の行き届かないところが多いと感じがしました。 一般の学校では、学年等で、必ず複数で対応していると思います。ただ、規模の小さい学校の中では 2 人で対応する場合も実際にはあると思います。ここは本当に何かあってはならないことですので、そこを防がなければいけない

	と思うところです。何か起これば、国からもこういうふうになさいと出てくるわけですけど、それに対して本当にきちんと対応する、気を引き締めてやるとか、監視体制や場所とか見る位置とか、そういうのも国の方針に従ってやらなくてはならない。また浅くても、この前 70 センチで溺れたということもありましたので、本当に気づけなくてはならないんだと。ちょっと具体的でなくて申し訳ありませんが、そのように捉えています。
--	--

10 諸連絡

第 2 回委員会 日時 令和 7 年 1 1 月 1 2 日（水）18:30～
会場 東公民館 ホール 1・2

11 閉会